ⓝ ノイジィだよ。日本の学校は

Ｎ先生の家にホームステイして日本の高校に通っているアメリカの高校生ブラッド君が生駒台小学校にやってきました。高校の試験休みの間，小学校での生活を体験しようという訳です。交通・通信の発達で，世界が，地球がどんどん小さくなったような気がし，国際化ということが強く叫ばれる今です。こんなときに，彼がやってきたことは，私たちにとっても，子どもたちにとっても貴重な経験でした。

彼は，約１週間，６年生と生活しました。よくは分からない国語の授業に参加し，いっしょに歌い，運動場を走り回りました。そして，お別れの日がきました。私は，日本の小学校についてのブラッド君の感想をＮ先生に尋ねてもらいました。彼の一言は「日本の学校はノイジィ（騒がしい)」でした。

このとき思い出したのが，文部省派遣の海外教育事情視察団の一員として，東ヨーロッパの国ハンガリーの地方都市エゲルを訪ねたときのことです。見渡す限りのブドウ畑をバスで通りぬけ，快晴のエゲルに到着した私たちは，荷物の整理もそこそこに散歩に出かけました。

この町の中央には 14～15 世紀に築かれたという古城があります。これは有名なものだそうで，この国第 2 の規模を持つ 18 世紀のバロック式の教会とともに，エゲル観光の中心となっています。私たちが訪ねた日も，多くの観光客が訪れ，この城の地下深く掘り下げられた要塞を見学していました。私たちも，70～80 人の観光客とうす暗い地下道を歩きました。

ガイドさんがハンガリー語で説明してくれます。もちろん私にはチンプンカンプンです。静まりかえった地下室に説明の声が流れます。そのときでした。小学校１年生くらいの女の子が，隣にいた母親らし

い人に，何か話しかけました。「あれはなあに」とでも尋ねたのでしょうか。しかし，その人は「シーッ」と口に指を当て，そのまま静かに説明に聞きいりました。女の子も黙りこみました。次の見学場所で，私はガイドさんが説明する時間を計ってみました。5 分 30 秒でした。この間，その女の子は黙ったままでした。

珍しいもの，見知らぬ人々，彼女にとっては多分初めて見るであろう日本人の集団,「あれはなあに」という声が出るのも当然でしょう。その上，延々と続く説明です。たとえ母国語ではあっても，彼女にとっては難しく分からない説明に違いないのです。まだまだ，見学は続きました。説明を聞くところも 5，6 カ所はあったでしょうか。次の見学場所まで歩いているときには，少々甘えながら，お母さんといろいろと話している彼女ですが，一度ガイドさんの説明が始まると，その間は最後まで声を出しませんでした。

もう 1 つは，小学校を訪問し授業を参観したときのことです。それは，6 年生の英語の授業でしたが，驚いたのは先生の小さな声と子どもたちの静かな挙手でした。そして，子どもたちの目がしっかりと教師に注がれ，誰かが答えるときは，その子の口もとにみんなの視線が集中していました。先生の「サンキュウ」「プリーズ」といった静かな声ですすんで行く英語の授業を助けているのは，先生の目であり，くちびるでした。声に出すだけでなく，目で，そして，くちびるの動きで語りかける授業が強く印象に残ってい

ます。

　でも，こうした授業が成立するためには，

「人の話は静かに聞く」「人の迷惑になることはしない」

ということを身につけていなければなりません。

　それは，家庭でのしつけで，父母や祖父母，兄弟姉妹が連れ添っての日曜礼拝で，近所のおじさん，おばさんとの触れ合いの中で，当然のこととして身につけていっていることのようです。

　こんなことを思い出しながら，

「話すことの大切さと同様に聞くことが大切なのです」

と１人のアメリカの高校生に指摘されたような気がしました。

　アメリカのある学校の生徒手帳に

「私は，この学校で勉強する権利を持っています。このことは誰も私の勉強を妨げてはならないということを意味しています」

と書かれていたと聞いたことがあります。

　誰もが，自分の学ぶ権利と共に，友達の学ぶ権利を大切にしなければならないのです。すなわち，友達の学習を妨げてはならないという義務も併せて持っているのです。

「人に迷惑をかけない，邪魔をしない，これが，お互いの権利を尊重することなのだ」

　これからの子どもたちを育てていく中で，最も基本的・基礎的なこととして大切にしなければならないのはこんなことではないのでしょうか。